

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL<0762>52-2271 FAX52-2273

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL<0762>22-2525 FAX24-2882

会長：清水 忠 幹事：米沢 真二

情報委員長：吉田富士夫

1989年12月14日 第404号

美観遊創「金沢バラ色交通体系」

作家 三田 薫子氏



先日、テレビ電話を利用した、フェイストウフェイス・コミュニケーションと呼ばれるシステムで、金大工学部の松浦先生と「金沢の交通体系のありかた」と言うテーマで対談を致しました。テレビ会議は、居ながらにして遠隔地とコミュニケート出来る又、現代の交通体系の不備を埋めることの出来るすばらしいものと映りましたが、松浦先生は「通信の発達は、一層の交通の誘発をさせ双方は互いに比例して増大する」とのことでありました。

又「都市は人の集りであり、勝れた土地には勝れた人が集まるが、交通の便が良くなければ人は来ない」ともお話しをされました。

ところで私の住む金沢の街は落ち着いていて、物事を良く考へ集中する事の出来るすばらしい処があります。先人達が培って来た歴史的な物も多く、感謝し守ることも大切であります。しかし、古い形式の中にも知的で自由でのびやかな感覚も又必要であります。そのためには、新しい血を加へて新旧のハーモニーを醸し出す知恵が道にも建物にも必要です。道は単なる通路ではなく「ふれあいサロン」「人も車も絵になるドラマチックロード」「出会いの空間」であり「バラ色の空間ゾーン」であってほしいのです。その空間は又、私達に自然を疑似体験させてくれる様なモチーフやエッセンスを写し出す、手鏡的要素をも持ち合せてほしいものです。

金沢の街並は、外様大名であった前田家が戦術的に造った町であり複雑です。それ故に街路が近代化に遅れたとするならば、その要塞を砕かねばバラ色の交通体系は無く、心の開国も無いのかも知れません。金沢を外に開かれた街にするにはどうすれば良いのでしょうか。道路整備はスピードを上げて進んでいるとは言へ、冬の旅行者が困るのは雪の多さではなく、着物の白タビも気になる雪道にあります。「ガンギアンドライドシステム」と言う言葉で示される様に、吸水性の高く明るい歩道が雪国では必要ですし、外部よりのアクセスはモノレール等により独創的な自由空間に求めながら、文化的金沢の主旋律である匂ひや香りを残してほしいものです。

金沢の景色も日毎秋色に潤って来ました。この様な変化は私達に、街は生きていますと感じさせてくれます。ハードな考え方だけでは、人も子供も育たないし、環境保全の為に街の緑化は一層に必要なことでもあります。又、道路ばかりが立派に整備されてもそこを利用する生活する人々が、しなやかな発想を持ちフレキシブルに動かなければ、道も生きて来ないのではないのでしょうか。

私はこれからも、このすてきな「水と緑の都・金沢」をずっと旅して行きたいと思っております。

— 金沢北RC創立16周年記念例会講話より — (文責 磯野洋明)

'89～'90年度国際ロータリー 第261地区地区大会開催される

清水 忠

11月11日、12日の両日、石川厚生年金会館、センチュリープラザ、金沢東急ホテルを会場として登録2,159名(実参加約1,700名)という盛況裡に開催された。前後不順な天候も、この両日はまさに菊花薫る小春日和となつて錦上花を副えた。

1日目11日は、会長・幹事懇談会、新ポールハリスフェロー、新米山記念奨学会功労者昼食会に続いて行われたシンポジウム「外国から見た日本」がハイライトとなった。

山本茂金沢女子大教授の司会の下に、日本・中国・インド・アメリカからの国際色豊かな4人のパネラーが、日本および日本人観を語り、「菊と刀」論から「世界の中の日本」論まで白熱の論議が展開された。RI会長代理佐藤千壽ご夫妻を囲む歓迎晩餐会は、金沢素囃子保存会の長唄「石橋」の祝儀もあめでやかに、金沢ならではのもてなしの心のこもった交歓の宴となった。

2日目12日の本会議では、佐藤RI会長代理がF.M.アーチャーRI会長のメッセージと現況報告を伝達され、引続いてロータリーの職業宣言についてスピーチをされたが、何れも参加者に深い感銘を与えた。

表彰では、当クラブは出席優秀クラブ賞、米山記念奨学会特別寄附功労クラブ賞、米山記念奨学会寄附総額1千万円達成クラブ賞の3つの賞を受賞した。

記念講演では、ミヤコ蝶々が「女ひとり」という演題で、体験の滲んだタテマエではないホンネの人生論を展開し、全員のみならず、夫人方の好評を得た。

棹尾を飾る大会の夕べは、大津美子の「こゝに幸あり」の熱唱もあって参加者全員による友愛パーティとして熱況裡に幕を閉じた。

本大会は、清水誠三ガバナーを生んだ金沢南RCがホストとなり、当クラブもコホストクラブとして全員登録のみならず大会実行委員として多くの会員のお世話をいただいたことを感謝したい。金沢南RCさんご苦労さまでした。



ロータリーニュース

金沢北RC創立15周年記念事業として製作された卯辰山東山地区観光案内板(監修 大場松魚、工事施工 スタンドアドサービス)が金沢市都市美文化賞「気配り賞」を受賞した。

平成元年11月24日(金)厚生年金会館において受賞式が行なわれ、清水忠会長に、金沢都市美委員長福光博氏より表彰状と楯が授与された。



相模原南RCとの友好提携なる

(I) 調印式等のスケジュール 11月30日(土) 於:松魚亭

- 調印式 清水金沢北RC会長あいさつ
深沢相模原南RC会長あいさつ
バナー交換及び締結書調印
- 懇談会 相模原南RC来訪6名の方と当クラブ理事との懇談会
- 市内見学 卯辰山工芸工房、東山茶屋街、卯辰山工芸の森公園
- 懇親会 両クラブの交歓夕食会



(II) 清水会長あいさつ

このたび、相模原南クラブさんと当クラブは友好提携をさせていただくこととなりました。

論語の冒頭は「学びて時に之を習う、亦よろこばしや」に続けて、「友あり遠方より来たる、亦たのしからずや」という言葉からはじまりますが、正しくその憶いがします。東京の東、神奈川屈指の大都市から、野をわたり山波を越えて遙かな金沢へようこそお見え下さいました。

しかも、当クラブとのご縁が、柴田三郎氏が中心となって当クラブが14年前に発刊した“お、ロータリアン”であったことは感動的であります。孔子は論語を続けし、「文を以て友を会す。友を以て仁をたすく。朋友と交わりて信ならざるか」と云っておりました。書物や学問を以て結ばれた友人こそが、真の友であることを説いています。

今日の日を機縁に、心の友としてさわやかな交友をいただく様お願い申し上げます。

友好クラブ締結書

1. 金沢北ロータリーと相模原南ロータリーは、相互理解と友情を深め、共にロータリー精神の昂揚をはかるため友好クラブを締結する。
2. 友好の実をあげるために
 - a. クラブ会報を通じ、奉仕活動及びその他の消息等、互いに情報交換を行なう。
 - b. 相互訪問の機会を生かし、理解と親睦を深める。
3. 締結書の期限は当初満五年とし、協議の上更新することが出来る。

本締結書二通を作成し、各々その一通を保有する。

平成元年11月30日

金沢北ロータリー会長 清水 忠

相模原南ロータリー会長 深沢 博

相模原南ロータリークラブ概要(平1.7.1)

沿革	仮クラブ発足	昭和45年12月16日(水)
	国際ロータリー加盟承認	昭和46年3月20日
	スポンサークラブ	相模原ロータリークラブ
	創立時会長	渡辺綱彦
	創立時地区ガバナー	入江直祐
	特別代表	竹内強一郎
	創立時会員数	28名
	現会員	54名
	初例会日	昭和45年12月16日(水)
	例会会場	横浜銀行相模大野支店(小田急相模大野駅前)
	例会日	毎週水曜日 12:30
	会費	年 240,000円
	クラブ事務所	相模原市相模大野3-7-15 横浜銀行相模大野支店内
	事務局員	ロータリー直通電話 0427-46-4108 今井貞子

